

## 笠岡市教育委員会 10月定例会 会議録

1 開会年月日	令和5年10月20日(金) 午後6時30分
2 場 所	笠岡市教育委員会会議室
3 出席委員等の 氏名	教育長 岡田 達也 委員 石井 啓弐 藤谷 幸弘 山下 敬広 東山 琴子
4 欠席委員の氏名	なし
5 会議に出席した 者の職・氏名	教育部長 森山 一成 教育総務課長 松尾 千鶴 学校教育課長 榎野 英一 生涯学習課長 石井 善子 スポーツ推進課長 土屋 武之 給食センター所長 宮 恭子 教育総務課課長補佐 藤代 幸弘
6 付議案件及び 議決状況	議案第26号 公民館運営審議会委員の委嘱について  協議報告事項 別紙のとおり
7 会議の状況	別紙のとおり
8 閉会年月日	令和5年10月20日(金) 午後8時13分

議事録署名委員 教育委員 石井 啓弐

教育委員 東山 琴子

会議録を調製した職員 松尾 千鶴

## 会 議 の 状 況

### 1 開 会 （岡田教育長）

### 2 前回議事録（定例会）の報告 （藤代課長補佐）

令和5年9月定例会

令和5年9月29日（金）午後6時30分から，教育委員会会議室で開催

出席者は，石井委員，藤谷委員，山下委員，東山委員

審議案件は1議案

・議案第25号 公民館運営審議会委員の委嘱について

閉会は，同日の午後9時20分

### 3 教育長の報告（挨拶）

改めまして，こんばんは。今日，教育委員の皆様には施設訪問に参加していただき，ありがとうございました。笠岡小学校，そして金浦小学校，それぞれに特長を持った教育を展開していただいて，非常にありがたいなということを感じました。その後，清水邸も見えていただいて，初めての方もいらっしゃると思いますが，これからも清水邸の庭園を保存するために，私達も頑張っていきたいと思っています。

#### （1）小中学校について

10月になって，9月に多かったコロナやインフルエンザに関わる臨時休業等がなくなって，今は落ち着いて子ども達は学習をしています。10月の初めの週には小学校6年生が修学旅行，非常に良い体験をしてきた報告を受けています。そして，先週ぐらいから中学校の運動会，体育会が，暑い夏が続いた中で，1ヶ月遅くし無事に完了しています。明日の大島中学校が最後で，多分これで中学校の体育会的なものは終わると思います。秋になって，今日も朝夕寒くなってくるのですが，子ども達は各学校によって健康管理に気をつけながら，一番落ち着いた学習の季節を迎えますので，読書や文化的な学校での取組等を今は進めているところです。

11月になったら，小学校では学芸会等が中心になると思います。今はその準備を進めている学校もあると聞いています。

#### （2）秋の行事について

生涯学習に関しては，これから土日いろいろなイベントが，地区の公民館の文化祭も含めて増えてくるように思います。また，スポーツについても，今週の日曜日にはべいふぁーむ駅伝を開催します。今年はコロナということに関しての不安感

は確かにあるのですが、コロナ禍から立ち直って、良い意味でも日常が戻ってきたという感じを受けています。是非機会がありましたら、いろいろなスポーツや文化的な行事に参加いただけたらありがたいと思っています。とにかく、実りの秋という名の下に、教育委員会の行事も、各学校における取組も充実させていきたいと思っています。また今日、各課の報告の中でいろいろなイベント的なものの紹介もあると思いますので、何かありましたら遠慮なく質問いただけたらと思いますので、どうぞ最後までよろしくお願いします。

#### 4 議事録署名人の指名（石井委員，東山委員）

#### 5 議事

##### 議案第26号 公民館運営審議会委員の委嘱について（生涯学習課）

石井課長 資料議26-2から議26-3をご覧ください。公民館運営審議会委員の委嘱ですが、このたび9月23日付をもって委員の辞任、具体的にはご逝去ということで、辞任という手続きになっています。それに伴い推薦団体等の役員を変更決定したものです。公民館職員等候補者推薦委員会にて推薦・選出した候補者をお諮りするものです。任期は2年ですが、委嘱日を令和5年10月1日付とし、前任者の残任期間、令和7年3月31日までとするものです。下段の一覧表には、笠岡東公民館全体の運営審議会委員を示しています。今回、該当者はアンダーラインで示している方となります。なお、議26-3には関係法令を添付しています。

岡田教育長 それでは、ただ今の議案について、何か委員の皆様からご質問・ご意見はありませんか。

教育委員 (なし)

岡田教育長 それでは、ご承認いただけますか。

教育委員 (異議なし)

#### 6 協議・報告

##### (1) 学校規模適正化計画及び小中一貫教育推進計画について（学校教育課）

榎野課長 資料協1-1をご覧ください。まず1つ目ですが、小中一貫教育に関する研究の今後の予定として、11月27日に、研究指定の研究発表会を行いたいと考えています。大島みたけ学園の方で小中一貫教育を進めています。その研究主題、「みたけっ子の学びと育ちをつなぐ小中一貫教育の推進」として、この日の発表内容は、公開授業を考えています。教科については外国語科英語、これは小学6年生と中学1年生が合同で英語の授業をするということを考えています。その様子を見ていただき、その後に研究

協議をしている場面も公開ということで、参加者の方にその様子を見ていただいて、大阪教育大学の木原先生の方から指導いただきたいと考えています。参加対象については、各学校の方から学力向上等について研究を進めている職員に参加をしてもらおうと考えています。続いて広報ですが、広報かさおかの10月号で現在の笠岡市の教育、「学びと育ちをつなぎ、自立して共に生きる子どもの育成」と題して、岡田教育長の言葉もそちらの方に掲載しています。続いて、金浦中学校ブロック施設一体型小中一貫教育校の開設に向けてですが、今は特段の新しい動きはできていませんけれど、これまでの経緯として懇談会を、地域・保護者の方対象でしています。6月にはPTA役員、それからまち協の代表の方を対象に、6月の時点では3月議会での設計予算が否決されたこと、それから土砂災害警戒区域のため、建設場所を南側で検討すること等について説明をしています。その後、8月末から9月にかけて、今度はそれぞれの小学校3校のPTA役員の方への懇談会ということで、もう一度行って、6月議会の時点で整備検討委員会の予算が否決されたこと、そして、整備検討委員会が開催できないということから、建設位置の再検討などが現在できていない現状を報告しています。

岡田教育長 確認ですが、総務文教委員会に報告する資料は、今日は用意はされていないのですか。

榎野課長 今日ではできていません。

岡田教育長 その資料に具体的にどんな意見が出ていたかとかが書いていなかったですかね。

榎野課長 ありました。

岡田教育長 総務文教委員会で報告することを、一応、委員の皆様にお知りおきいただきたいので、案でも良いから後で配ってもらって良いですか。各課でも、総務文教委員会で報告する案件については報告しておいた方が良いかと思うので、その辺は今後も気をつけてください。もう1点ですが、研究会の案内等ができていれば、学校に送ったりするではないですか。それをよく定例会の時に、教育委員の皆様には案内を差し上げたのですが、その辺はどんな感じですか。

榎野課長 学校の方に送るものはもうできているので、それも併せてこの後配付させていただきます。

岡田教育長 それでは、何か委員の皆様からご質問・ご意見はありませんか。

山下委員 前回の会議の中で、全体の計画が大きくずれるのではないかという話があったと思います。その際に、計画が大きくずれるのであれば、そもそも整備検討委員会の成立自体が意味がなくなるのではなからうかという話を

させていただいた記憶があるのですが、その辺りの議論というのはどうなっているのでしょうか。はっきり申しますと、前回お話したことが今出てきているのかというのがあります。「考えます」と言われて何も出てきていないのなら、話をする意味がないのではないですか。

岡田教育長 教育委員会として、一体型一貫校を作ることは変えていません。ということは、その中で指摘いただいているところは土砂災害警戒区域の関係で、北側だと危ないということだから、作るという中で、その部分の意見をいただく場が要るということで、整備検討委員会の予算を上げているというところは変わっていません。12月補正予算に上げて、遅れるということで計画のスケジュールは変わりますが、作ることにしては変わらないということです。

山下委員 全体の計画が大きくずれるのではないかという話が前回あったと思います。それをどこまでずらすかということによって、市のどの学校をいつするかという、そもそも論が変わるのではないかということです。そもそも一体型を作ることの意味すら問われるような状況になっているということで、話し合いが必要だし、そこを早く決めないと金浦の整備検討委員会自体の予算を上げる意味がない、予算が通ったけれども、やっぱりずれました、できませんとなったら、何のための会議なのかとなります。それが前回、そういう議論があったと思うのですが、その話かなと思ったら全く違う話なので、前回の話は何だったんだということになるのです。

岡田教育長 この資料の3には「開設に向けて」とあるけれども、何もここで議論して意見をお聞きするようなものはないですね。ということは、結局、今の答えは、そこまでまだ部内で検討できていなくて、2年間遅れる可能性が高いというのはお伝えしていると思いますが、その後のスケジュール感をどうするかとか、作ることも含めて、今現時点では計画は変わっていない訳ですから、作るという中で整備検討委員会が必要だけれども、そのスケジュールをどうするか。その計画では、今は3つの一体型一貫校の話が出ているのではないですか。その辺の検討をするのは、いついつからまたやりますということがここで語られたら良いのですが、その辺は今の予定として、その検討は必要だというのはこの間話が出ていたではないですか。それが前回、もう1回教育委員の皆様という話が出ていたというところはどうかですか。

槇野課長 まだ、その検討がしっかりできていないので、また準備ができ次第皆さんにお諮りをさせていただきたいと思います。

岡田教育長 確認しますが、今度11月の定例会がありますが、その時には、そういう話が出るということの理解でよろしいですか。

楨野課長 後ろに伸ばしても、そろそろ12月議会のこともあるので、早めにそのことは諮らせていただきたいと思います。

森山部長 私どもが考えているのは、今の時点では、場所は金浦の敷地の中でしょうと思ったら、南以外は考えられないと思っています。それから、位置についてはそのままいかせていただく、ただ、時期については山下委員が仰ったとおりで、ずれ込む可能性があるのは確かです。これがいつまで延びるのかということは、まずは金浦をしたいという思いがあるのですけれども、現在、それに対して、その計画をどこまで見直したら良いのかというものがないのです。だから12月の予算取りをするのも全力であたって、その後金浦も含め、大きい枠組み、新吉だったり神外だったり、その部分は、計画の枠組みが変わらないのであれば、ある程度スケジュールを変えたものの計画書を更に作るか、はじめからやり直すかというのは、それはまた考え直していかないといけないと思います。ただ、市長はこの計画通りいこうとしているので、その中でできる方法を今は考えています。今の時点では12月には通してもらえるのではないかという期待をしていますが、これがどうなっていくかはわからない中で、まだ計画自体がいろえないという状況になっています。

岡田教育長 2つあると思うのです。1つは、今のままで遅れてずっとここまで否決されてできなかった中で、その金浦の一体型一貫校を初っ端としてする意味があるのかという、先程も山下委員が言われたそのことの確認です。その後の具体的なスケジュールというものは、協議の場を設けないとできないということだと思うのです。だから、そういう話であるということによるしいですか。せつかくの機会なので、他の委員の皆さんはいかがですか。

東山委員 金浦中学校区は予定がずれ込むということで、金浦についての計画も見直さないといけないのですが、そのことを言うと、今度は笠岡市全体を見直すきっかけとして考え直すべきではないかと私は思っています。また、未就学のお子さんの人数、地域ごとの人数とかも把握してということ、多分先月言ってくださっていたと思うのですが、その辺りも同時進行でやっていかないといけないのではないかと思います。あとは、新たに作るのではなくて進められる地区、神外とかについてはどうなのかということも、皆さんは話し合っていくべきだと思います。

石井委員 スタッフがもっと、教育委員会の人数が多ければ同時進行できるのでしようけれども、金浦が遅れると、結局次々全部他が遅れていくということで、金浦の学区ができない限りは、どんどん先に延びていくということですね。

森山部長　あと一つは、神外も施設一体型ということだと思うのですが、遅れることによって、そこのやり方も考えないといけない部分は出てくるかもしれません。他も一緒かもしれません。

岡田教育長　現状の中で予定通り進んでいない訳ですから、今の段階でどういうことをどういう風にするかという合意形成を、確認も含めてする場が必要だと思います。今、計画というものはなくなっています、では、それをなくすのか続けるのかということ、そうなってくると何が影響するかというと、学校規模適正化とリンクしているため、金浦地区の小学校をどうするかということも議論するので、そこまで踏み込むのか、金浦についてはこうするという部分で、その後のスケジュール感はまだ別件とするかとかいろいろな方法があると思うのです。現時点で教育委員会としての決定は、金浦の一体型一貫校を作ることの中で今は動いています。だから、整備検討委員会で場所的なものを具体化するということの中で、それを踏まえて検討するようになっていくのかと思うのですが、そういう場が結局必要だということだと思っております。時間がないですから、今日この中ではそこまで決められないです。だから、そこら辺を今回意見をいただいた中で、例えば、来年度になったらそういう見直しの時間を取るとか、このままの計画ではいけないというのは、2年間遅れるとこの間も出ている訳ですから、という話だと思います。

藤谷委員　なかなか自分なりに整理できていないのですが、山下委員が言われた、検討委員会を開く意味がなくなるのではないかというのも分かるのです。要するに市議会の判断がどうなるかというのが一つの大きな要素になるのだと思うのですが、あの土地に、校舎を建てる位置を南側にすることによって、地域の皆さんも市議会もそれなら良いというのは、ある程度方向性が見えているのであれば、検討委員会の予算を上げて検討を進めていくのは意味があるけれども、それが見えないのであれば検討委員会を開く意味がないのではないかとされていると思うのです。だから、そのところは難しいところがあるとは思いますが、もう一つ言われているのは皆さんが言われているように、金浦の工事が例えば2年遅れるのであれば、他の学校を先にするかそういったことも含めて、新吉中学校も今のところが土砂災害の警戒区域にかかっているのであれば、当初考えていた構想が駄目ということもあるので、それも含めてもう1回最初から計画を見直さないといけないところは見直した提案なり、審議、協議が必要ではないかとされていると思います。それで、今の段階でできるところはここまでです、この部分については今後検討していきますというところが整理できないといけないかと思っております。

山下委員 藤谷さんが仰っていただいたように、結局、今回の件が他の学区の話に波及してくる訳です。同じ時期にできないというのは、はっきり最初に言われていたので、その学区の扱いを検討していかないと、金浦を更に後ろにずれ込ませるということも考えないとならないだろうと思います。だったらこの時点で、議会に「検討委員会を設置してくれ」と予算要求することがタイミングとしてどうなのかというところの話し合いをしないと、OKは出ました、でも結果的には後ろに2年ずれ込みますから、他のところを優先するのであれば更にずれますということになってくるので、何のために申請するのかという話です。その辺の議論が必要だという話を前回しているのです。何故今日出てこないのだという話です。

岡田教育長 教育委員会として決断した、令和2年度に出した計画は今残ってます。その中の計画通りっていないという現状の中で、これを見直さなければいけないですね。一気にやめますとなったら、説明してきた人たちに私達は責任を取れないという中でどうするのかという話なのです。だから金浦をやるのも、2年間遅れるというのはお伝えしています。その中で、神島外中学校は先にできる可能性が高いです。そういうことを議論する時間とか、そういう提案が要るのではないですかと指摘があったことは分かりますかね。

森山部長 やはり、山下委員さんが仰ったとおり、藤谷委員さんにも仰いましたが、その会議をするべきだと思いますね。

岡田教育長 その中で、出し方として、ゼロから、今の中で皆さんがフラットにこの場で議論していただくのか、まず事務局として、この11月の時にこんな風に考えていますというたたき台を出してやるのかで、全然進み方が違うではないですか。

森山部長 事務局として考えていることをまず出して、それをたたき台としてやりたいと思います。

岡田教育長 それが今回出てくるはずだったのではないですかということだと思のですよ。だからそれを、本当に申し訳ないですが、私も確認できていなかったもので、11月の時には出させていただきます。その中で議論・ご意見をいただいて方向性を確認するというにさせていただきますということでもよろしいですか。事務局としての協議ができていないので、11月にたたき台を示させていただきますということでもよろしいですか。

森山部長 そういう場を設けて、これに関して皆さんと協議をさせてもらいたいと思っています。

岡田教育長 結局次のステップに、この教育委員会で決めたことがいろいろな状況の変化によって、認識が変わってくる可能性もあるではないですか。でも、

計画は残っている訳ですからね。

森山部長 議会も今のやり方が絶対駄目だとは言っていないというのは皆さんに知っていただきたいと思います。計画も、自分達も認めてきた、基本計画の費用も認めてきた訳です。ただ、議会の方の考えとして、一旦立ち止まって欲しいという考えがあるのも確かです。事務局としての考え方を outsizing させていただいて、それから意見をいただくようにします。

## (2) 笠岡市小中学校いきいきオープンスクールの開催について (学校教育課)

槇野課長 資料協2-1をご覧ください。いきいきオープンスクールについて、資料に掲げてある趣旨の下で行っていく予定です。市内の小中学校を一定期間一斉に開放して、各校の教育活動を公開していきます。実施期間については、原則11月1日から7日の授業日ということで、ただ各校のいろいろな状況を踏まえて、実施日の方を各校で設定してもらうということで進めていきます。対象校については、市内の全ての小中学校ということで、当日資料として、お手元の方にお配りしていますが、基本的にはこれで開催をしていきます。教育委員の皆様も、時間がありましたら、是非学校の様子を見ていただけたらと思っています。

岡田教育長 それでは、何か委員の皆様からご質問・ご意見はありませんか。

教育委員 (なし)

岡田教育長 これは、小中一貫教育が完全実施された中でのオープンスクールだと思うのですが、何かそこら辺を意識した取組等はされているのですか。今日のような乗り入れ授業を、ここに入れていくとかあるのですか。

槇野課長 小中一貫について、この時間帯の中で組んでくださいという言い方ができていないので、日常の様子の中で小中一貫の方が出てきている学校もあるかもしれないというのが現状です。その時間帯で小中一貫のものがあるかどうかは、それぞれの状況だと思います。

岡田教育長 ここの中に小中一貫的な視点を入れている学校の、実施時刻とか何かがあるではないですか。やはり何を見てもらうかという、その時々教育委員会としてやっていることというのがあると思うのですが、そういうのを入れる必要性はないのかと思っています。今年は何が違うのですかと言うと、コロナがあけたので、1日から7日の1週間、授業日をとっています。その中でいつでも良いので来ていただいて、本当に小中一貫教育はこんなにもやっているのですよということを見ていただくべきではないかと思う訳です。申し訳ないですが、学校教育課がそういう意識をしないと、結局何がどう変わったのかと発信できません。先程の山下委員も言われたことに関わるのですが、一体型一貫校は本当に大切なのです、必要なので

す、意味があるのですということ、ないものを語っている訳です。そういうところから見ていただくことで、「一体型になったらもっとこれが進むんだ」となったら、もっと欲しいなと思うではないですか。そういうことは必要ないでしょうか。何か例年のことを例年のように、消化試合のようにやるということは、やはりあまり意味がないなと、今回は小中一貫教育が完全実施したという中で、学校のここを見てもらえるみたいな雰囲気作りがあったら嬉しいです。笠岡小や金浦小は、校長先生がそんな感じの意欲だったではないですか。だからなおさら、うちとしてそういう発信が必要だなと思っていて、まだ10日ぐらいあるのですが、そこをこれは確認できないのですか。保護者に何を見てもらうかというところで、あると嬉しいなと思っただけです。少し確認して、もし乗り入れ授業がこの中であるのだったら、そこに何か「乗り入れ授業です」みたいな記載があればいいですね。これはよく学校のホームページに載せるのです。そうした時に、「乗り入れ授業をしますからどうぞ」とかすると、通知文を各学校で出すので、その辺を配慮いただいたらありがたいかと思っています。

東山委員 オープンスクールとは関係ないのですが、参観日とか、例えば乗り入れ授業をしている授業を保護者が見るというのも大切なことかと思うのですが、そういう試みはもうされているのですかね。

槇野課長 「乗り入れ授業をしますからどうぞ」という案内をしているかどうかというのは、おそらくそんなにはないのではないかと思います。

東山委員 せっかくなので、保護者としても「ああ、こういう感じで進んでいるんだな」というのが感じられるのではないかと思います。

岡田教育長 一つの方法としてよくやるのですが、この期間を除いて、学校が独自にこういうことを今年は新しくやっているの、「もし時間が空いたら自由にご参加ください」と出す文章もあるのです。という方法もあれば良いのではないのですかね。一応期間はこれですが、そういう学校が見てほしいものがあれば。やはりこれからは、いろいろな方々に学校の現場の変化を見ていただけたらありがたいので、そういうことを学校に発信していただけたら良いのかと思います。その他、いかがですか。

教育委員 (なし)

### (3) 小学生英語デイキャンプについて (学校教育課)

槇野課長 資料協3-1をご覧ください。今年初めての取り組みになりますが、小学生英語デイキャンプを行いたいと考えています。趣旨としては、小学生が市内各校に勤務しているALTの先生と一緒に体験活動を行うと、基本的には英語を使いながらの活動ということで、その中で生きた英語に触れ

て、英語を使ってコミュニケーションを図る楽しさを自然に味わってもらおう、感じてもらうという趣旨です。実施日、今年度は3回考えており、その第1回目が11月4日ということになります。対象としては市内小学校5・6年生で、自由参加ということで申請をしてもらって、多数の場合には抽選ということで、基本的には10名・20名という辺りの人数を想定しています。内容としては、裏面の方に印刷していますが、ALTと共にチャーター船で白石島の方へ行き、そこでハイキングやゲーム等を行うということを考えています。予算措置についてはこども教育振興基金を活用ということで、こちらの方から予算を工面して、子ども達の参加の方は無料ということで、どうぞこういう機会を利用して参加をしてくださいという形にしています。なお、今年度は3回やりますので、全部3回申し込んでいただいても良いですし、なかなかこの日程は都合がつかないという時には何回目なら行けるかなということで、是非多くの子ども達に参加をしてもらいたいと考えています。

岡田教育長 それでは、何か委員の皆様からご質問・ご意見はありませんか。

東山委員 11月4日のものについては、もう申し込みをされている感じですか。今は何人ぐらいですか。

槇野課長 先日、3日ほど前の集計では20数名だったと思います。参加者多数になって抽選という可能性も今は出ている状態です。

東山委員 予算があるからできることなのでしょうが、特定のお子さんに全額無料という、これは全然問題はないことなのですか。

槇野課長 基本的には広く一般に、小学生に向けて案内をしていますので、対象は皆さんということで、是非多くの子ども達に参加をしてもらいたいと考えています。

岡田教育長 その他、何かありますか。

教育委員 (なし)

#### (4) 第46回笠岡市青少年健全育成推進大会について(生涯学習課)

石井課長 例年11月、青少年健全育成強調月間で開催している当該の事業について、資料協4-1から協4-2をご覧ください。内容の詳細は2ページの開催要項のとおりとなっています。今年度は昨年度に引き続き、コロナ禍前の実施形態で大会実施できるよう計画しているところです。会場は中央公民館4階で、コロナ禍前の座席配置等を考えています。なお、会の中で実施するスピーチコンテストの発表者については、11月5日に開催予定の青少年スピーチコンテストで決定します。こちらの開催通知・観覧通知の参考資料としてスケジュールを載せていますが、資料協4-3に記載

のとおりで、午前中が小学生とし、午後から中学生の部ということで、2段階形式で実施したいと考えています。時間が許されましたら、スピーチコンテストの観覧をお願いしたいと思います。なお、明るい家庭づくり作文については、協4-1の最下段のところに書いていますが、発表者の作文審査・選考は終了していて、今回、8年ぶりとなりますが、保護者の部の方の発表を予定するものです。

岡田教育長 それでは、何か委員の皆様からご質問・ご意見はありませんか。

教育委員 (なし)

岡田教育長 私の方から補足しますが、スピーチコンテストでは去年も委員の皆様から、参加者が少ないということ指摘いただいたと思います。それで小学校の英語の部を作りました。その中で、英語の部が10名でしたか。13名でしたか。日本語の部は、中学生は34名ぐらい応募がありました。その中で10名を、このスピーチコンテストで選んだと思うのですが、総勢の数がすごく増えました。中学生の英語スピーチも12名ということで、今回は1桁の、1人・2人・3人みたいところが、生涯学習課が周知をしてくださって、非常に増えています。だから全部の応募でいうと、67名というのはかつてない応募だと思います。これを審査するというところで、例年午前中だけだったものを、午前中では足りないので1日にして、小学校が午前中、中学校は午後ということにして、本来的な趣旨に合ったようなものによりなったということは感じています。ただ、小学校の英語スピーチが5・6年生なのですが、今日見ていただいたように、5・6年生は教科化されており、その中で暗唱的なものにしているため、これは創作とは違うので、来年度はテーマを決めて創作、短くても良いから自分の思いを英語で語れるような形にしていこうかと思っています。その前段として、まずはこういうたくさん参加するということを狙っているのです、これをより改善していきたいと思います。私から補足をさせていただきました。本当にたくさんの子が応募してくれて、ありがたかったです。

#### (5) 第70回笠岡市文化祭・第46回笠岡市芸能祭・第48回笠岡市菊花展について (生涯学習課)

石井課長 資料協5-1から協5-2をご覧ください。本日、お手元にカラーのチラシを配布させていただいているので、併せてご覧ください。笠岡市文化連盟主催の、今年度の秋の行事の案内です。特に一番上の11月3日に開催予定の笠岡市芸能祭ですが、令和2年度・令和3年度と2カ年、無観客で動画収録と放映という形で実施して、昨年度はようやく有観客となりました。今年度も有観客の形式で、本日配布のプログラムのとおり14団体

の発表を計画しています。なおプログラムの2番に特別出演ということで、白石踊会による白石踊、風流踊ユネスコ無形遺産登録認定ということもあるので、しっかり見ていただけるような場面も設定していきたいと考えており、その演目を入れています。またご覧になっていただければと思います。

岡田教育長 それでは、何か委員の皆様からご質問・ご意見はありませんか。

教育委員 (なし)

#### (6) 令和5年度森田思軒顕彰講演会について(生涯学習課)

石井課長 資料協6-1から協6-2をご覧ください。併せて、本日お手元にカラーのチラシを配布しています。こちらは平成8年度から開始して、27回目を数える事業となっています。笠岡出身の明治の翻訳王と称された、森田思軒の功績を顕彰する講演会、思軒命日の11月14日に近い日、大体いつもこの11月という時期に開催していますが、今年度は11月11日(土)に実施を予定しています。このたびは、過去3年間続いた講師の先生から、川戸道昭さんという方、プロフィールなどは記載のとおりですが、お願いをすることになります。こちら川戸先生については、平成15年度、平成17年度、過去にも2回講師をお願いして、今回で3度目の登壇ということになるものです。こちら、図書館にも顕彰コーナーを設けていますが、図書館の会場にて行う予定で準備をしています。ご覧になっていただけたらと思います。

岡田教育長 それでは、何か委員の皆様からご質問・ご意見はありませんか。

教育委員 (なし)

#### (7) 笠岡市立カブトガニ博物館の行事等について(生涯学習課)

石井課長 資料協7-1から協7-2をご覧ください。件名は、「笠岡市立カブトガニ博物館の年間パスポート発行の取組について」です。取組目的1にも示していますが、施設をより利用しやすく、また企画展の来館者増やリピーターの獲得、そしてリピーター率のアップに繋げ、さらなる入館者数の増加、またカブトガニ博物館自体の認知度の向上を目指す目的で、この10月1日から年間パスポートの新規の取組を開始したものです。既に減免制度としては、笠岡市内の小中学生については、公共施設無料パスの「笠岡っ子パス」というものを従前から配布していて、当館も無料で利用いただいているという、この制度は既存のものがあります。そういう中ですが、その子ども達と一緒に複数回来館される親世代からも、引率の保護者等の大人は都度お金がかかるということもあって、何か負担軽減の対応

策が設けられないかということ、それから記載のとおり、議会からも、何か入館料免除の方向も考慮してみるのはいかがでしょうか、パスポート形式はどうかというような意見もいただいていた。そういったことも含めて、このたび年間パスポートというものを発行して、運用を開始したところです。今は市内の話をしました。当然市外からの来館者にとってもお得なパスポートとなるものと考えています。開始が10月1日で、ちょうど半月経ちましたが、一昨日現在で言うと、今は大人が8件、市外の小中学生1件という販売実績で、大人の8件の内訳についても県外が5、県内が1、市内が2ということです。県外も隣の福山ということに限らず、尾道であるとか神戸といったような所からも利用があるものです。市内のみならず市外の来館者にとっても有効に働けばと考えていて、引き続き当該の取組についての周知、今はホームページに出している状態ですが、さらなる周知をしっかりと図っていきたいと思っています。なお、有効期間の記載のところ、2番の※のところ、「1年間」としていますが、運用上は購入日から1年後の月末までとしているので、例えば10月の今日購入したら来年、令和6年の10月末までということ、運用していきたいと思っています。また結果の検証・分析が必要かと思いますが、今回は、事業をスタートさせたという報告です。

続いて、同じ笠岡市立カブトガニ博物館の事業ですが、資料協7-3の「学芸員チャレンジ」の取組についてです。こちら、学芸員チャレンジという名称で事業を実施したのが令和3年度からですが、これは年度に1~3回程度実施し、対象を小学生から高校生までと幅広に設けてやっけて、今回の取組を合わせると、3カ年度で6メニュー実施してきています。通算6回目の取組で、記載のとおり全4回シリーズで、今回は高校生を対象に、座学から化石採集とフィールドワークを始め、化石のクリーニング作業、また博物館内への化石展示まで行うというメニューで実施します。タイトルに「リターンズ」とありますが、この学芸員チャレンジが大変人気で、好評でして、令和3年度に実施したものとメニューを少しずつ変えながらも、踏襲するところもありつつ、このたび再び実施を計画するものです。

岡田教育長 それでは、何か委員の皆様からご質問・ご意見はありませんか。

藤谷委員 協7-2に年間パスポートの表面・裏面があるのですが、表面の「HCM」はどういう意味か教えてください。

石井課長 これはコピーの字が薄くなって見えにくいですが、印刷では「笠岡市立カブトガニ博物館」を英語で書いていて、「HORSESHOE CRAB MUSEUM」として、頭文字部分が見えています。

藤谷委員 この後に続けてあるのですか。  
石井課長 続けてスペルが書いてあります。見にくくて申し訳ありません。  
岡田教育長 その他、よろしいですか。  
教育委員 (なし)

#### (8) 笠岡市立竹喬美術館の行事等について（生涯学習課）

石井課長 資料協8-1をご覧ください。先月の教育委員会定例会で、旧今井小学校の空き教室空間を活用した絵画教室の開設についてはお知らせしています。今回はその教室を会場にワークショップを1日、ピンポイントとしてですが、開催する行事のお知らせとなっています。この10月29日は、今井小学校の体育館や教室を利用して、地元今井地区の文化芸能祭が午前・午後を通じて開催されるものです。同じ日に合わせて、その一角の3階の絵画教室の部屋で、このワークショップを実施していきたいと考えています。10月18日、昨日現在で既に募集定員を超えているところで

岡田教育長 それでは、何か委員の皆様からご質問・ご意見はありませんか。

東山委員 今日笠岡小学校を見させていただいた時に、ポスターが貼っていたところがあって。笠岡小学校からの参加もあるのですか。

石井課長 このワークショップについて、笠岡エリアからの参加もあります。

岡田教育長 よろしいですか。

教育委員 (なし)

#### (9) その他

##### ● 第18回べいふあーむ駅伝大会について（スポーツ推進課）

土屋課長 当日資料として、第18回べいふあーむ駅伝大会の資料をつけています。これは教育長の方からも説明がありましたが、明後日の10月22日（日）に、第18回べいふあーむ駅伝大会が開催されます。こちらは、岡山県と広島県の実業団の駅伝大会となります。毎年行われているもので、今年も開催されますという報告と、2枚目の方に、当日は9時45分から13時の間交通規制がかかるため、こちらの区画は入ることができませんので、報告させていただきます。

岡田教育長 何か委員の皆様からご質問・ご意見はありますか。

教育委員 (なし)

##### ● ファジアーノ岡山練習場整備費補助金交付要綱について（スポーツ推進課）

土屋課長 来月の総務文教委員会協議会で、協議案件として挙げる案件について報

告をさせていただきます。案件内容については、ファジアーノ岡山の練習場整備費補助金交付要綱を制定することについて、協議を行うこととしています。こちらの概要ですが、(株)ファジアーノ岡山スポーツクラブと萩原工業(株)から、萩原工業(株)の工業用地の一部を利用して、ファジアーノ岡山が人工芝のサッカーコートとフットサルコートを整備し、そちらの運営をファジアーノ岡山が行いたいという申し出がありました。そしてその整備資金を、企業版ふるさと納税を活用してサッカーコートを整備したいという相談が、笠岡市のスポーツ推進課とふるさと寄附課の方に話がありました。こちらのサッカーコートの整備費用が2億9,000万円、その2億9,000万の内、企業版ふるさと納税を1億7,000万円活用して、グラウンドを整備したいという話がありました。内部の方で協議して、現在笠岡市には芝のフットサルコートというものが1面もなく、そして、フットサルコートの設置の要望は以前からあったので、笠岡市にとって市内に人工芝のフットサルコートとサッカーコートが整備されるということは、大変大きなメリットがあると考えています。そこで、中で協議した結果、ファジアーノ岡山練習場整備に対する補助金をスポーツ推進課の方で制定しようという話になっています。そちらを来年1月1日に、この補助金の要綱を制定する話で今は進めています。それに伴い、12月補正予算で令和6年度からすぐ事業が開始できるように、債務負担行為を1億7,000万円要求することとしています。

岡田教育長 何か委員の皆様からご質問・ご意見はありますか。

石井委員 昼だけですか。ナイターはできるのですか。

土屋課長 一応照明設備もついたもので、夜も利用できるという形になっています。

森山部長 正式な試合をする明るさまではいかないのですが、練習する分には十分な明るさをとってもらえるような話です。

石井委員 社会人の人が昼仕事で、夜に使うのにどうなのかと思いました。

森山部長 空いている時ということにはなるのですが、市民の方が使えるようにはしてもらおうと思っています。

藤谷委員 聞き漏らしたかも分からないですが、今予定されている萩原工業の企業用地というか、土地というのは笠岡市内ですか。

土屋課長 港町にある工業団地。岡山県の土地を萩原工業が買って、そこに工場を建てるのですが、その一部がまだ使う予定がない土地があるので、そこを芝のフットサルコートと芝のサッカーフルコートを整備したいということです。

藤谷委員 すごく広い土地ですね。

土屋課長　　そうですね，広い土地を購入されています。

岡田教育長　干拓の南側の方の，今は工業用地があります。

土屋課長　　11ヘクタールほどになります。

藤谷委員　　笠岡港の方ですか。

森山部長　　そうです。石材会社があったり，サニックスがある方です。

岡田教育長　こちらから行ったら，奥というか，もっと南側方面です。よろしいですか。

教育委員　　（なし）

● 食育の状況及び残食について（給食センター）

宮所長　　本日は金浦小学校で，センターからの給食を試食いただいたかと思いますが，今日の給食は小学校の高学年を対象にした量での提供になっています。これに合わせて，給食センターの食育の状況及び残食についての資料を用意しました。まず，縦書きになっているものは食育の状況です。コロナが5類になってから，対面での食育指導を行えるようになりました。小学校5年生については，朝食指導という形で授業の時間をいただき，10月から行っています。また，学校からの要望により，主に給食時間という時間帯に行かせていただき，給食の準備・配膳・片付けの様子を見るとともに，指導内容は資料に記載してありますが，喫食中においては食育の指導を行っています。また，1年生・2年生においては，先般，大島小・金浦小は実際にセンターを見学していただき，朝一番にセンターに寄っていただき，調理が始まっている様子を見ていただきました。11月以降も，学校からの要望があれば朝食指導依頼として直接学校に赴き，食育を進めていきたいと思っています。昨年度の3月に，残食率というものを1回出しているのですが，その後の6ヶ月間の様子です。去年に比べて増えている学校もあり，食育がまだ十分できていないということも感じるところではあるのですが，正直，学校に行って栄養教諭が指導すると，その日はすごく残食がなくなるのです。2，3日は続くのですが，やはり少し間が空くとまた元に戻るといった話も聞いています。根気よく食育指導をしていかなければいけないかと実感しているところです。

岡田教育長　何か委員の皆様からご質問・ご意見はありますか。

教育委員　　（なし）

岡田教育長　全体で増えていますね。

宮所長　　減っている学校もいくらかはあるのですが，大きい所は増えているところがあります。

岡田教育長　小学校は今の現時点の9月と比較した時には，令和4年の平均と比べる

と多いです。小学校合計14.8%が4年度の平均だとしたら、9月は17.58%等は、何か理由があるのですか。

宮所長 1つ理由は、欠席者が多かったというのがあります。欠席者が多いと、提供している量からの残食になるので、欠席者の友達の分まで食べていないと量が残ってきます。欠席人数までは伺っていないので、そういう意味で言うと、インフルエンザ等の欠席者による目に見えない形で残食は出てきています。

岡田教育長 昨年度の9月末期と今年度の9月末期を比べたことはないのですか。今は一生懸命4月から取り組んでいるけれども、結果的にどうなのかが知りたいです。

宮所長 昨年度、この間は全体的に欠席者が多かったというのは聞いています。この資料については、各学校へは自校の経緯・経過状況はお知らせしているのですが、学校によってはそれを気にしていただいて、食育指導をお願いしたいという要望が上がってきていることから、少しでもそうしたいと思うのですが、具体的にどうして増えているかというのは、欠席の人数的な話だけになります。嫌いな給食が多いとは思ってなくて、大抵喜んで食べていただいているような感想は、各検食簿から上がってきています。

岡田教育長 何か委員の皆様からご質問・ご意見はありますか。

東山委員 登校している人数で計算して、一人当たりの残食量みたいなものが分かれば良いなと思っています。公平に、欠席者等も考えても良いけれども、何か計算方法はないですか。

宮所長 昨年1月の給食週間の時に欠席者も引き算した上で、提供の割合を計算した時期があるので、今回もその時期に合わせて、昨年との比較という形で、給食週間に合わせてやろうとは思っています。

東山委員 せっかく良い試みで食育のことをされているので、数字として表れたら職員の間もやる気が更に上がるかと思えます。

岡田教育長 もし可能なら、11月の定例会で良いので、半期ごとの結果を、これだと、令和4年度は年間の平均が書いてあるのですが、令和5年度は月ごとの平均しかないではないですか。だから、例えば9月、半年でということを出していただくと、昨年と比べて増えているのか減っているのかという判断ができますね。その辺を出していただいた方が良いのかと思うのと、学校によっての結果は見たら分かるのですが、なぜその学校は変わっていないのか。ある学校はずっと残食率が高いではないですか。何故なのかというアンケート的なもので聞き取りというか、そういうのはされているのですか。

宮所長 アンケートは毎回6月時分と、それから給食週間に合わせた時分で2回

アンケートを行っていますので、運営委員会等の中で報告しています。

岡田教育長 その中で、6月のアンケートで残食率が高いのは、何か理由として挙げるものがあるのですか。

宮所長 子ども達は朝食が大切であるとか、給食に栄養価があるというのはよく分かっているのですが、実際に食べているかどうかというところまでは直結していないみたいで、頭では分かっているけども食べられていません。コロナがあったせいもあるのかもしれないのですが、食事に対して消極的、マスクを外して食べることの抵抗があるみたいで、皆が皆、正面を向いて食べているのもあるのですけれども、和気藹々とした給食時間にはなっていないのは確かなので、楽しい給食かどうかというところでは、割合は低くなっていると思います。

岡田教育 何が言いたいかというと、こうやってデータを採ると、データは意味がある訳です。そうした時に、栄養価は決まっていますね。例えば20%の残食率だと、簡単に言うと、100人いたら20人がちゃんと食べていないようなイメージになる訳です。そうした時に、これは学校教育の中で、今度点検評価をしますが、その中に食育の推進、健康な体を作る等があるではないですか。それが、これだとどうなのかというのをすごく思っていて、健康な、健やかで、運動だけではなくて、体の中に栄養というものを採ることが必要ではないですか。それがあってのスポーツだと思うので、そこら辺のところはどうなのかというのがすごく気になっています。だから、理由があって、私達教育委員会として改善しなければいけないようなことがあるのだったらすれば良いし、学校として、家庭としてだったら、今は各ブロック内で、学園でコミュニティスクールをしているではないですか。そういうところでデータを出して、うちの子供達は栄養価に対して十分ではないのですよとなった時に、家では何々します、地域では何々しますとまらないかと思って、うちと学校だけのやりとりでは解決しないのかという気がしています。

宮所長 今は金浦のブロックで、金浦小学校を見ていただければと思うのですが、10月ぐらいにかなり食育に対して積極的に関わっていただいているので、子ども達もそういう意識を持っていただいていると思っています。10月以降、金浦地区みらい学園の方から、特に金浦小学校なのですが、「積極的に食育をしたい」という強い希望があって、栄養教諭も積極的に行く方向に努めています。学校の方からいくらアクションをしていただかないと、「行く」と言ってもなかなか行けない状況にあり、今話はいただいているのですが、具体として指導に行ける日にちが決まっていない学校も何校かあります。やはり具体的な日にちをとって、行くことが一番大

切だと思っているので、私達は対面での指導を積極的にすることで、残食率の減少にもなっていくのではないかと考えているところです。

岡田教育長 先程の所長の報告の中で、食育指導に行くと3日間は残食が減るとか言われたのではないですか。私が思ったのは、結局先生の言葉がけかと思った訳です。だから、極端な解釈だと、言葉かけが3日しかできていないと取れるかどうか。つまり何が言いたいかという、先生たちが毎日毎日そういうことをすれば、減っていく継続性が高まるのかどうかというところが分からなくて、結果として数値化されたら、これを教育委員会として知っておきながら、これに対して何もしないというのは、それはどうかと思う訳です。だから、これをあなたたちは課題として捉えていないのですかと言われたら、20何%もあつたら課題として思うし、その辺のところはどうしたら良いのかというのが見えてきません。結局、学校で食育ということをして、結果的には食べさせるというか、「もっと食べませんか」という強制はできないというところもあるのですが、何か良い方法はないのかと考えた時に、コミュニティスクールをしている時に、その学園の小中合わせた課題として捉えてもらうというのはできるのかと思います。例えば、笠岡小学校は9月に21.45%、西中学校は24.65%、大井小学校は14.04%で、大井は少ないではないですか。そうした時に、笠岡がもっと頑張らないと西中学園のパーセンテージは減らないとか、そんな議論ができるの良いですね。やはりせつかく小中一貫教育というシステムを今年から本格実施している訳ですから、その中で話題にして、地域・保護者の参画もできるようにしているので、そういう形に是非なつて欲しいなと感じるのですが、その辺はどうなのですか。なっているのかなっていないのかよく分からないですが、誰に聞いたら良いのですか。

宮所長 食育の状況の中に、例えば8月8日に小北中学校に給食委員会がやって来て、給食についてインタビューしています。今度は10月27日、これは予定なのですが、北川小学校の保護者に対して食育指導をする、子どもはもちろんなのですが、外側からの食育指導というのは大切だと思っていて、できるのであれば、例えばPTAとか家庭での食育、学校においては学校の先生が中心になっていただかないと、先程の食育指導の話ではないのですが、「毎週来てください」と簡単に言われても、そこばかり行く訳にはいきませんので、それを継続してできる方向で、学校で取り組む方法も検討していただきたいとは思っています。

岡田教育長 もう1点、あえて言わせていただくと、子ども達が食べたくなくて、残さず食べようと思うような給食も提供しなければいけないではないですか。それは全部セットだと思います。だから、この結果をセンターとし

て、教育委員会として、自分を見直す一つの材料に使わないといけないと思うし、そういうことができないとなかなか厳しいのかという感じを受けました。データ化すると結構意味があると思います。

藤谷委員 残食率は、これは単位は%ですか。

宮所長 %です。これは、汁物等の場合は汁も全部入っていますから、例えば今日も味噌汁があったと思うのですが、具だけ食べてお汁が残っていても、残食として数字は出てきます。だから、その辺をいくらか加味してあげないといけないとは思っています。

藤谷委員 これは、提供した重さですか。

宮所長 重さによる割合です。

藤谷委員 それは帰ってきた時の重さを量って、おかずもあればご飯もあって、それを全部量りにかけて集計されるのですか。

宮所長 そうです。これは1ヶ月分なので、メニューによって完食の状況が違ったりはしています。

藤谷委員 残食率の数字の大きい所と小さい所、児童生徒の人数の多い所の残食率が高くて、少ない所が低いとか、そんな傾向はないのですか。

宮所長 あります。

藤谷委員 提供する量が、人数が多いと少し余分に入っているとか、そんなことはないのですか。

宮所長 基本的にはありません。ただ、業者の方が少し予備として、例えばなのですが、シューマイ等が少し多かったら、いくらか中学校や小学校に振り分けることはあります。でも、その程度です。

藤谷委員 子ども達の人数の少ない所は、分ける時に分けやすいと思います。例えば10人に分けるのと40人に分けるのと、どうしても最初は少し少なめについて、足りなくなっちはいけないからということもあると思いますが、配膳の時に、そういう要因はないのですか。

宮所長 配膳の様子も見ていますが、見に行った限りでは、とりあえず1回全員に配る、それで、自分の配られた量が絶対食べられないという子は返しに行っています。

藤谷委員 食べる前にですか。

宮所長 食べる前に返しに行きます。それで、「これぐらい残っているけれども、食べられる人は」と言ったら、今度は食べられる人がそれを取りに行く、おかわりするという感じにはなっています。残食が少ない所というのは、女子が結構おかわりに行けるクラスの雰囲気があって、そういう所は割となくなるのですが、女子が食べない所は残食がどうしても増えてくるようです。

藤谷委員 確かに、残すよりは最初に返した方が良いというものもあるのかも分からないけれども、「平等についだものを皆残さず食べましょう」という指導はできないのですか。それでは強制になってしまうのでしょうか。

宮所長 一応しています。これが必要な量だというのは理解して指導しています。

藤谷委員 食べられないから最初に返すというのも一つのやり方かもしれませんが、平等について、「できるだけ残さずに食べましょう。体を作るための成長期なので、頑張って食べましょう」という、そういう指導もそれぞれだと思います。

宮所長 学校へ行くと結構皆頑張って、無理してかもしれないですが、食べてくれるので、それで残食が少ないのです。

岡田教育長 藤谷委員が言われたのが正しいですね。例えば、岡田はほとんど食べていないけれど、それを森山君が2人分食べますよと言ったら、岡田の栄養価は全然足りていないですね。彼は食べすぎですね。

森山部長 細かく言えば、私と教育長の必要なカロリーは違うと思います。クラスの中でも、小さい子どもさんは、食べられないのだったら返したいというのは、必要カロリー量からしたら仕方のない部分もあるかもしれないのですけどね。

岡田教育長 そうなってくると、残食率の意味合いのレベルが変わってきますね。

藤谷委員 私のイメージは、体格の違いはあります。男性・女性も違います。だけれども、やはり配膳は同じようにしてあげて、一生懸命食べてもどうしても残る人は仕方がないから、それは返せば良いと思います。だけれども、最初から本当は食べられる人が、最初から少なくついであったらそれ以上食べられないではないですか。おかわりをつぎに行くことも可能なのですが、何か少しやり方を、方向を変えてみても良いのかと思いました。

宮所長 学校によっていくらか違うのですが、配ってから返す場合もありますし。それからおかわりタイムみたいなものがあって、配膳した後に、それを目的に、例えば牛乳が2つ残っていたら、牛乳2つを並べて飲む子もいれば、じゃんけんしてでも欲しいという子もあったりして、それは学校ごとでいろいろ一律ではないのです。先日、金浦中学校に行った時なのですが、教頭先生が「白米王子、もう少し食べられるよね」と言ってもう少し入れられる、要するにもう少しの助けで一口食べられるという子も確かにいるので、自分からはおかわりできないけれども、先生とか誰かの声かけでもう一口・二口が食べられる子もいるのは本当だと思います。それは潜在的にいると思います。

藤谷委員 難しいことだと思います。

岡田教育長 その他、よろしいでしょうか。

東山委員 今日の給食で、魚のメニューを大変おいしくいただきました。ただ、笠岡市の子ども達は魚の残食量が多いと言われていました。その辺りの比較とかも、今回9月の25日とか26日に魚の説明をしてくださっていたりするので、その辺りも何か比較があれば面白いのかなと思いました。

宮所長 指導に入ると、この日はかなり食べています。だから、その意味を分かった上で食べてもらうことが一番大切、ただの食事ではないということを理解してもらうのが一番大切だと思っています。体を作る上でそれだけの量が必要であることとか、栄養価がどういう風な形で体に入って成長を助けているのかとかいうことも。野菜、魚が残りやすいというのも明らかに分かっているので、そちらの指導は今年度も中心にしているような状況です。

森山部長 地元産の鯛なんかは食べてくれましたからね。指導に行った所というか、取材に入った所は、全部食べています。

宮所長 やはり見てもらっていたら食べてくれるのですよね。

岡田教育長 学校の指導のあり方が一番の原因みたいな感じになるのですが。難しいですね。ただやはり、それぞれの立場で、つまり家庭で朝食を食べるとか、そういう食べる環境が少ないとかがあります。韓国に子ども達を連れて行った時に、韓国の子ども達はすごく家で食べるのですよ。それで、日本の子が「食べない」と言ったら、元々家で食べないから給食も食べないみたいなことでした。家の食事は「好き嫌いなく食べなさい」と言うけれど、ある程度子どもが食べそうなものを用意するではないですか。給食とはその部分はハードルが低いので、という総合的な話として考えた方がよいなと思っています。家でも食べない子だったら、給食を食べるかというのは結構ハードルが高くなるので、健康という観点で、自分の健康はちゃんと自分で管理しようという視点が教育では要るので、そういう大きな食育という部分をこれからも進めていきましょう。

東山委員 小学校で、親子活動と言って給食を食べるとというのが昔はあったのですが、今はもうないのですか。

岡田教育長 1年生なんかで要望がありますね。

宮所長 今は親子で食べられるような学校環境ができて、試食の要望はすごくあります。参観日とかで保護者の方が来られた時に、一緒に食事をしていきます。

岡田教育長 1年生以外でもあるのですか。

宮所長 1年生に関係なく、何年生でもしています。

岡田教育長 良いですね。大体1年生が多かったですね。

宮所長 特に1学期の終わり、2学期ぐらいになってから増えてきました。このところは少し多いです。

岡田教育長 それならありがたいですね。

東山委員 そういった時に、保護者にも食育指導することになって、やはり家庭でも意識改革は大事だなと思います。

宮所長 そういうことはやはり家庭からと思っています。先程の小中一貫の話ではないのですが、小学校でよく食べる子は中学校になっても食べるのです。けれども、小学校の時に既に食べる量が少ないと、中学校になったらますますそれが大きくなっているかと思っています。だから、学区で見ただけであればその感じがします。

岡田教育長 それでは、その他に何かありますか。

教育委員 (なし)

#### ● ジモト愛アワードについて (学校教育課)

槇野課長 案内のチラシを今日は配布させていただきました。日にちが明日で、この会は青年会議所が主催で、教育委員会は後援ということで行っています。この「ジモト愛アワード」というのは、子ども達が課題解決を目指して、自分たちの町に対してプレゼンをするというようなものです。この案内が今年春にあって、いろいろな中学校で総合的学習の時間等を活用しながら、青年会議所の方にもサポートに入ってもらいながら取り組んできて、これが発表会の日ということになります。これは市内の中学校だけではなくて、高等学校が対象だったり、寄島等少し地域を拡大しての取り組みです。これに向けて、市内からも全部で27チームがエントリーをして、先日その予選会のようなものがあり、結果、笠岡市内からは神島外中学校が事前の審査を通過して、明日発表ということになりました。それ以外にも、蒼明学園の方からAチーム1チーム、それから笠岡東中学校が元々エントリーはされていたのですが、部活動等の関係で出ることができなかったということで、蒼明学園の方がもう1チーム、Bチームの発表ということになっています。あとは龍谷高校、それから寄島中学校、笠岡工業高校ということで、全部で6チームが発表ということになります。子ども達が本気で考えたプレゼンということで、チラシに記載の時間帯であるので、是非、都合がつけば、参加いただけたらありがたいと思っています。なお、この第1部の後に、辛坊治郎さんの講演会の方があるということです。事前申し込みをしていただいても、当日参加ということでも構わないということを聞いているので、どうぞよろしくをお願いします。

岡田教育長 先程の追加資料は準備できましたか。

榎野課長 今、2枚配らせていただきました。追加資料として、1枚は小中一貫についてですが、一体型の開設に向けて説明会をしました。先程、口頭ではほんのわずかしお伝えできなかったのですが、それについてまとめてあるものです。

岡田教育長 先程課長が説明した大島中学校の研究会の案内ですので、もし都合がつくようでしたら、参加ください。何か委員の皆様からご質問・ご意見はありますか。

教育委員 (なし)

● 惣路先生感謝のお茶会及び感謝状贈呈式の開催について（生涯学習課）

● 講演会「栗谷川虹先生と関藤藤陰」について（生涯学習課）

石井課長 過去に長く笠岡市に居住されていた惣路和子さんという個人の方から、笠岡市でお茶を習っている子ども達のお役に立てれば幸いだというようなことで、お茶碗や茶入れなど合計177点の寄附をいただき、こちらについては、8月17日に受け取りに行って来ました。資料の裏面にそれぞれものを記載させていただいています。この中央公民館の和室を利用して、笠岡公民館の茶道教室の皆さんで感謝の意を示すお茶会を開催したこと、それから市長並びに教育長名での感謝状をお渡しするというようなセレモニーをあわせて10月14日に開催したので、その報告をさせていただくのが1点です。

それから、今日は金浦小学校へ訪問した時に「関藤藤陰」という話が出ていました。視察訪問いただいた郷土館にもチラシが置いてあったかと思いますが、「栗谷川虹先生と関藤藤陰」という講演会を、市民活動支援センターで10月28日に開催する予定です。こちらは栗谷川虹先生の顕彰会が主催で、生涯学習課がサポートに入っているという状況です。こちらについては、元福山城博物館学芸員の方に講師をしていただくものです。この栗谷川虹さんは、笠岡市において史伝とか小説、評論等の執筆に取り組まれて、令和3年度の時に、裏面にありますが、笠岡市文化の日の表彰記念を受賞されています。この受賞時には、直前で他界されていたので当日出席は叶わなかったものですが、その方が三回忌を迎えられるということで、この講演会が地元の方の顕彰会で実現することになりました。ということで、関連の取組の案内をさせていただくものです。

岡田教育長 何か委員の皆様からご質問・ご意見はありますか。

教育委員 (なし)

● 令和5年度岡山市町村教育委員会研修会について（教育総務課）

松尾課長 今日机の上に「令和5年度岡山市町村教育委員会研修会の開催について」という案内文を置かせていただいています。こちらは10月18日に、もう既に委員の皆様にもメールでお知らせをしたものですが、受講希望がありましたら教育総務課までお申し出ください。こちらの方はオンライン会議になっています。自宅で受けることも可能ですし、市役所での受講を希望であれば、場所とパソコン機器類はこちらの方で準備させていただきますので、希望がありましたらお知らせください。

岡田教育長 何か委員の皆様からご質問・ご意見はありますか。

教育委員 (なし)

岡田教育長 それでは、長時間ありがとうございました。次回に改善点を2点、先程から出ていたように、教育委員会定例会でしっかり皆さんの意見をいただいた中で、次の時にその課題があるとしたら、その辺のことについてどういう風にするかという議論をする場を設けるということと、もう1点は「その他」が今日は多すぎて、項目として入れられるものは入れた方が良くと思います。そこに入らないものは急遽「その他」の中に入ると思いますが、報告案件として、その辺が全体像が見えない中で、司会をしていて、どこに時間をとるかからないかというのが分からなくなるため、事務局の方で改善をしていただけたらありがたいので、その2点については次回には改善させていただこうと思います。ありがとうございました。また今後ともよろしく申し上げます。